

牧野(淀川上流)探鳥会 2014年5月度

2014.5.4(第1日曜日、祝日) 9:00~14:00 日本野鳥の会大阪支部

担当 平 軍二(☎090-6901-1425) (Eメール g-hira@nifty.com)

南 茂夫、高井 常之、前田 初雄、甲田 照二、堤 潤、斎藤 健、西脇 淳浩

淀川河川敷は春一色、樹林ではウグイスの法華経、草原ではオオヨシキリの「行々子」が聞こえます。山地ではウグイスが囀っていてもほとんど姿が見えないので、ウグイスを探すことは少ないのですが、ここではさえずるウグイスの姿が見られる楽しみがあります。



ウグイス 110405 斉藤博氏

1. 先月(14年4月)の探鳥会から

雨確率の高く、冬の寒さの戻った強い風の日でしたが、幸い雨はポツポツ程度で濡れることはなく終了できました。ウグイス・シジュウカラ・キジなどの春の歌をBGMに、カワアイサ・カンムリカイツブリ・コチドリ・イソシギ・カワセミ・シロハラ・ツグミなど水辺の鳥・山野の鳥をいろいろ楽しむことができました。

2. 牧野探鳥会の野鳥(オオヨシキリ)

牧野探鳥会で山の鳥に会うのは嬉しいのですが、最も期待したいのは草原の鳥です。オオヨシキリはその代表選手、越冬地の東南アジアから4月ころ日本に渡ってきて子育てをし、9月には南に帰っていく夏鳥なので、5月の牧野探鳥会の主役になっています。

オオヨシキリは雌雄同色で背面は緑褐色、腹面は淡褐色で、白い眉斑があり、全長 18.5cm の細長く見える鳥。ヨシ原でさえずっている姿を見ると、個々の識別点を意識せずにオオヨシキリとわかります。赤い大きな口を開けて鳴く「ギョギョシ・ギョギョシ」は「行々子」と表記され、夏の季語として良く知られています。

食べものは動物食(昆虫類が中心)ですが、ヨシを切り裂いて中にいる獲物を捕食するとされ、種名オオヨシキリの由来となっています。

カッコウはオオヨシキリの巣に托卵する鳥。最近、牧野でカッコウを見ることが少なくなったと言われていますが、木々が大きく育ち草原環境が減り、宿主オオヨシキリの数が減ったからでないかと推定しています。

日本産鳥類目録第7版で、科名が大幅に変わった鳥があり、その一つに、ウグイス科の分割があります。第6版でウグイス科とされていた鳥は、第7版で6科に分割されました。

キクイタダキ科.....キクイタダキ

セッカ科.....セッカ

ウグイス科.....ウグイス・ヤブサメ

ムシクイ科.....メボソムシクイ・エゾムシクイ・センダイムシクイ

センニュウ科.....マキノセンニュウ・オオセッカ

ヨシキリ科.....オオヨシキリ・コヨシキリ

鳥類目録第7版をベースに新しく出版された図鑑は、ウグイス科が6分割された上、図鑑に記載される科の順番も変わったため、今まで記憶している記載順序と大幅に違って、混乱状態にあります。探鳥会リストも第7版をベースにしているので、わかりにくいと思います。



オオヨシキリ 120519 斉藤博氏

3. 自転車対策+トイレ問題

140406 自転車部隊と遭遇 →→

牧野探鳥会で最も気をつけていただきたいのは「**自転車と衝突しない**」、交通事故からの自己防衛です。自転車のスピードが早いので、万一衝突事故で怪我をするのはバードウォッチャー側になります。探鳥会で道路を横切るときは、小学1年生の気持ちになり「**前後左右**」の安全を確かめて横断してください。

また、コースに**簡易トイレが2ヶ所ある**ものの、正式なトイレは終了時の鳥合わせ個所のみです。この点もご留意ください。

4. 次回6月度は6月1日(第1日曜日)

6月は淀川河川敷(牧野)で生まれた鳥の子供たちに会えると思います。初夏の陽射しが強いので、熱中症対策を十分にして、参加して下さるようお願いします。



